

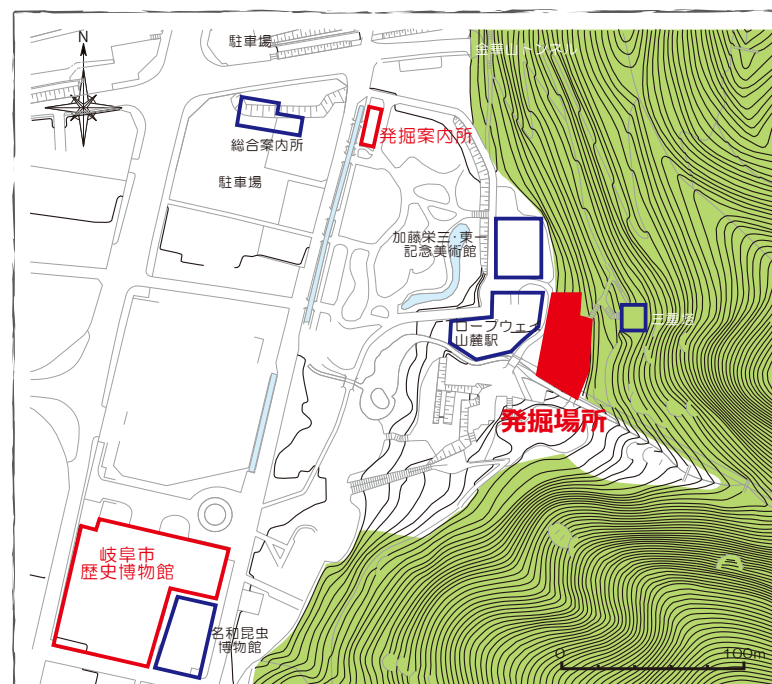
実際の発掘調査区全景

イラストと同じ角度から見た発掘調査区的全景写真です。手前左に一直線の石垣、手前右に階段や橋台関連遺構、奥に庭の一部である岩盤が見えます。



柱の土台である礎石という石が並んでいます。石は強く熱を受けており、周囲には焼土や炭が堆積しています。火事で消失した建物の跡と考えられます。

岐阜市教育委員会
(公財) 岐阜市教育文化振興事業団



発掘案内所では、これまでの調査の出土品や解説パネルを展示しています。また歴史博物館の常設展で、信長居館跡からの出土品が展示されています。

信長公居館（岐阜城千畳敷遺跡）発掘調査

平成 25 年度現地公開資料

平成 26 年 3 月 1 日（土）



～今回の発掘調査でわかったこと～

①館にある複数の庭園のうち、最大規模の庭園の全容が明らかとなりました

東側をチャートの岩盤、西・北・南側は石垣で護岸して区画しています

②巨大な岩盤と岩盤を流れ落ちる2本の滝が庭園の最大の見どころ

岩盤と岩盤を流れ落ちる滝を見せる庭園であることが分かりました

③金箔瓦を葺いた中心建物へは橋が架けられていました

南側の谷川を渡る橋に関連すると見られる遺構を発見しました

④館の入口から庭園（A地区）に至る動線が明らかとなりました

南側斜面の東端で立派な階段が見つかりました

階段を上がると目の前に巨大な岩盤と池が広がります

広大な庭園で客人をもてなした

A地区と呼んでいるこの平坦地は、中央に大きな池がありました。池の東側には切り立った岩盤がそびえ、一体の庭園を形成しています。岩盤には滝が流れ落ち、池に水を注いでいることがわかりました。

池の北側と南側には建物があつたと推定でき、そこから客人をもてなしたようです。信長公の居館には、いくつかの庭があつたといわれていますが、その中で最も大きい庭園と見られます。



背後に見える岩盤は庭園の一部で、池に水が流れ落ちていたと考えられます。



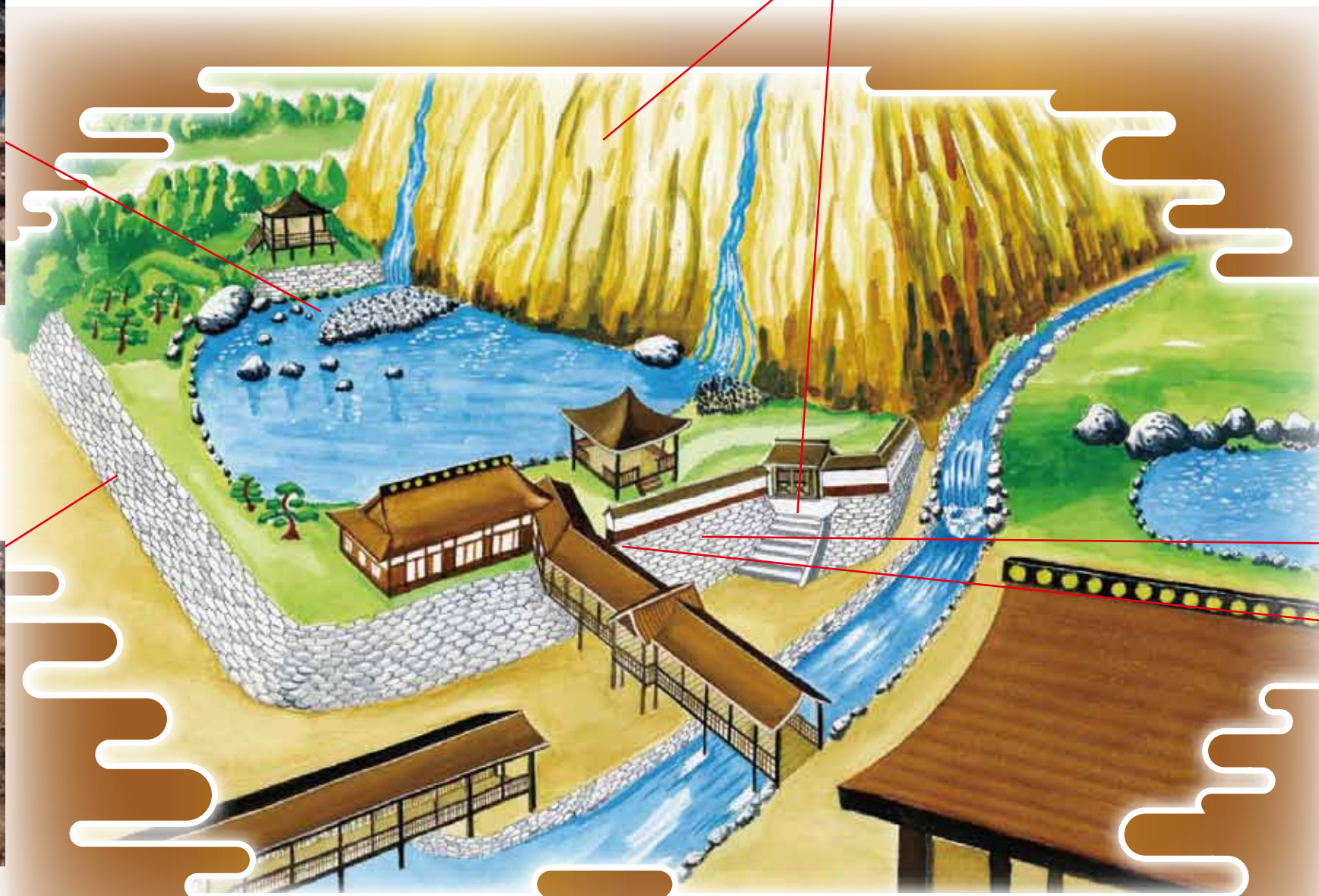
庭園のある平坦地に上る階段です。居館の入り口から客人を招き入れたものと考えられます。



滝の水は川原石を敷き詰めた所に落とし、石垣の前を流していたと考えられます。所々に置いてある石は景石^{けいせき}という観賞用の石です。



西側には一直線に伸びる石垣がありました。長さは約34m、上の方は崩れていますが、本来は3.5m程の高さがあつたと考えられます。



南側の石垣は緩やかに曲線を描いています。



南側の石垣は鏡石（立石）が据えられており、見せることを意識した石垣といえます。



橋の土台と考えられるものです。居館の中心部分である金箔瓦の飾られた建物に通じていたと考えられます。